



体験してみよう！

資料館で府中を学ぶのじゃ！

私がくわしく説明するよ！
呼ばれたら、学校や公民館でも
府中の話をするよ！



ひめと一緒にだよ～♪



国府の衣装体験



昔の人は
どんな生活をしていたのかな？



まがたま作り



草木染め

「国府の衣装体験」「草木染め」「まがたま作り」などの古代体験事業を行っています。
職員が学校や地域に出向き、「歴史講座」や「歴史探訪ウォーキング」等も行います。
気軽にお問い合わせください。

府中市歴史民俗資料館

住 所 広島県府中市土生町 882-2
電 話 0847-43-4646
休 館 日 祝日を除く月曜日・12月29日～1月3日
開館時間 午前10時～午後5時

※内容は令和6年3月時点のものです

詳しい地図は、こちらから！



Google Map

国府 まろひめ探検隊が行く！

番外編！

府中市歴史民俗資料館を探検しよう！

旧芦品郡役所庁舎(府中市指定重要有形文化財)



国府まる君



国府ひめちゃん



わしは、芦品郡役所庁舎じゃ。
わしが案内しよう♪
明治生まれの120さい！
「ぐんじい」と呼んでくれ！



ぐんじい(旧芦品郡役所庁舎)プロフィール

名 前 旧芦品郡役所庁舎
生 まれ 明治36年(1903)、府中市府中町(旧芦品郡府中町)に誕生
身 長 約12m 胴 回 り 桁行18.2m、梁間12.74m 建築面積 約232㎡
チャームポイント 都会的で、均整のとれたプロポーションと白(漆喰壁)に映える青い窓枠が自慢じゃ。当時流行した幾何学的な飾りがかわいいじゃろ！
貴重な文化財として、府中市指定重要有形文化財になっとるんじゃ。



建物のみどころ！

わしのチャームポイントを探して
☑ にチェックするのじゃ

わしが生まれたころは、
アールデコといって、
幾何学図形をモチーフにした
表現が流行していたんじゃ。



おしゃれな飾りだね♪
ぐんじいの髪型と一緒だ！

壁に帯状に取り付けた飾りは
胴蛇腹というんじゃ。当時の
洋風建築に多くみられるぞ。



まるでバレエの
チュチュみたいね！
かわいいわ♪



「だんご3兄弟」が
わたしのお気に入り！
探してみてね！



軒下四隅の飾り

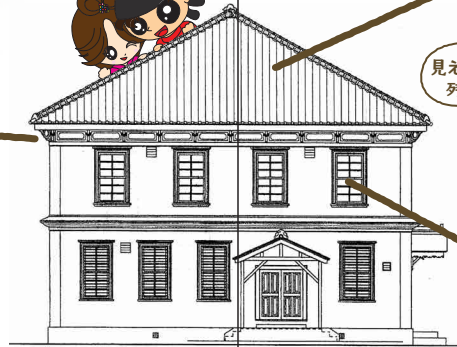


大きな胴蛇腹



階段の飾り

明治になって海外から
新しい技術や流行りが
入ってきたんだね



現在の旧芦品郡役所庁舎（左側面）



現在の旧芦品郡役所庁舎（正面）



見えない！
残念

洋組（トラス構造）

洋組（トラス構造）によって、大空間を
つくり出すことができたようになったんじゃ。
2階は郡会議場だったんじゃ。



見えないけれど、
天井が高くて、気持ちよさそうね！
いろんなところに
すごい技術が使われているのね。



上げ下げ窓

上げ下げ窓も
おしゃれじゃろ！
窓枠にオモリと
滑車が入るとるんじゃ。



120年も前からこの仕様なの！？
外国のお家みたいだね。
今でも開けられるのかな？



正面入り口

ひさし付きの出入り口は
「車寄せ」というんじゃ。
文明開化じゃのう。
この軒下の飾りも
なかなかじゃろ！



ここにもおしゃれな飾りがあるね！
手が混んでて素敵だね。
ブルーの色もとても綺麗。

基本データ

構造 木造総二階 寄棟瓦葺・栗材使用
桁行 18.2m × 梁間 12.74m 建築面積 約 232 m²
棟梁名 板倉保兵衛 後藤喜一郎
竣工年 明治 36(1903) 年



展示のみどころ！

昭和52年(1977)にここへ引っ越したおしは、
歴史民俗資料館になったんじゃ

こぶん
古墳の中から出土したもので、
ほうむ
葬られた人へお供えされたものじゃ。
きれいじゃろ。

写真の遺物がどこにあるか
見つけてチェック！



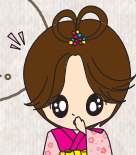
勾玉

宝石だね♪
硬いの、どうやって作ったのかな！



弥生時代の、
亡くなった赤ちゃんの棺じゃ。

昔も今も、
亡くなった人を
丁寧に葬るのは同じね。



弥生土器

じょうもん
縄文土器じゃ。
今から4000年前のものじゃ。
保育所の地面の下から
見つかったのじゃよ。



4000年も前ってすごい昔。
いろんなようがあるね！
このようには
どんな意味があるのかな？



縄文土器

歴史民俗資料館の2階は、体験会や企画展でつかってるんだって！

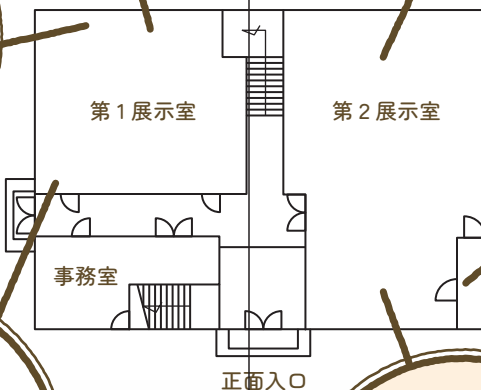


展示ケースの中には
備後国府跡の発掘調査で出土した品が
もりもりあるのじゃ。
復元衣装も見れるのじゃ。

備後国府の役人さんが
使っていた道具なんだあ。
いっぱいあるね。

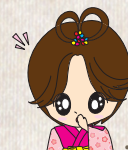


展示ケースの中



看板やバス停の写真

全国には、
「府中」や「国府」という
地名が残っているんじゃ。



九州や四国にもあるわ。
他にはどこにあるのかしら。



平安装束

この平安装束は
福山市・府中市の和裁の先生たちが、
作ってくれたんじゃよ。



ああ！
とっても華やかだわ～





芦品郡と郡役所の歴史じゃ

芦品郡と郡役所

明治時代に入り 10 年ほど経ったころ、明治政府は、ひろすぎる「県」、小さすぎる「町・村」の中間の「郡」を行政機関として機能させることにしました [明治 11(1878) 年郡区町村編制法]。郡に「郡役所」と「郡長」が置かれました。郡長は県知事から任命され、郡行政の決議機関である「郡会」の議長もつとめました。



明治 31(1898) 年、政府が進めた郡の再編政策によって、近くて日常的に人々の行き来が盛んであった「芦田郡」と「品治郡」が合併して、人口約 62,000 人の「芦品郡」(左図参照) が誕生しました。そして、明治 36(1903) 年、現在歴史民俗資料館として利用されているこの建物が、芦品郡で最大の“町場”であった府中町に、郡役所として新築されました。

郡制はわずか 33 年 [大正 10(1921) 年「郡制廃止ニ関する法律案」可決] で終わり、郡役所も廃止されましたが、その後も、この建物は、郡農会や広島県の出先機関となるなど長く使われました。

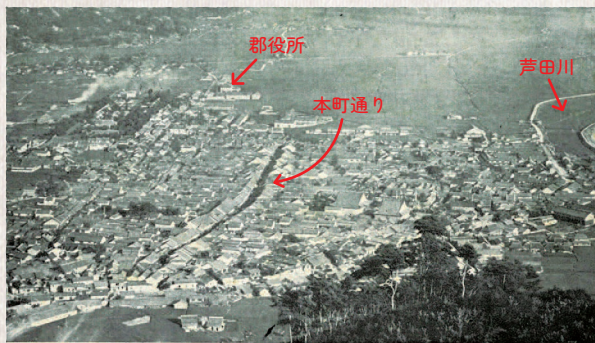
昭和 51(1976) 年頃、道路を広げる工事により建物が壊されることになりました。

しかし、まちのランドマークのような建物の消滅を惜しむ声がたかまり、府中市民による保存運動によって、移築費を集め、現在の場所 (土生町) へ移築され、現在まで、資料館として活用されています。

郡役所は“町場”の東端に建てられたのね



そうみたい！
その後、どんな東へ
府中のまちが広がったんだね。



(府中町役所本館)

景全町中府後備

明治末期の府中全景 (現在の府中高校 西の丘陵付近から)
(岡本雑貨店発行 絵葉書より)

芦品郡役所庁舎の建物

近代化をすすめたい明治政府は、役所・学校・駅など、たくさんの人が利用する施設を洋風でつくるよう指導したといえます。

芦品郡府中町でも、警察署・郵便局・小学校・中学校 (旧制)・府中町駅など、洋風の建物が次々と建てられました。モダンな建物を見た芦品郡の人々は「文明開化」を感じたことでしょう。

旧芦品郡役所庁舎は、均整のとれたドッシリとした安定感がある建物です。洋館では、トラス構造により広い空間をつくることができました。2 階の大空間は郡会議場だったと考えられます。



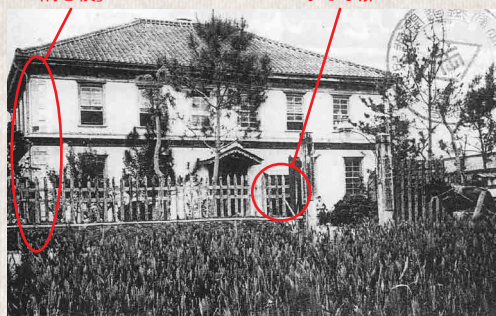
現在地に移転したばかりの旧芦品郡役所庁舎



2 階の大空間 (昭和 13 年郡農会：梅干供出)

漆喰塗りで表現された
すいしづみ
「隅石積」

小さな扉



大正 3(1914) 年両備軽便鉄道開通記念絵葉書より

外面を板壁とせず漆喰壁とし、当初の外壁面四角は、洋館でよく見かける「隅石積」を漆喰塗りで表現していました。正面玄関扉の隣に小さな扉、両側面と裏側にも扉がありました。また、軒廻り、軒下四隅、大きな胴蛇腹、玄関車寄せなど装飾的な部分が多いことがあげられます。

採光のため多くの縦長ガラス窓が並んでいます。まだ、ガラス窓が珍しい時代のもので。芦品郡の人たちの心意気が伝わってくる建物です。